

学び合い 認め合い 高め合う

～ 基礎基本の定着と「よさ」への気づきを促す対話的活動 ～

1 努力点設定の理由

AIをはじめとする様々な技術の進歩によって社会の在り方が劇的に変わる中、遠隔・オンライン教育が注目されるとともに、従来のような対面指導や子ども同士による学び合いなど、直接的な体験を通じて学ぶことの重要性も改めて注目されている。

それを受けて、令和3年1月の中教審答申では、ICTを活用した「個別最適な学び」と、探究的な学習や体験活動を通じた「協働的な学び」という、2本の柱で従来の日本型学校教育を発展させた「令和の日本型教育」を実現することを目指すことが示された。これによって、豊かな人生を切り拓き、よりよく生きていくことや、持続可能な社会の作り手となることができる生徒を育てることが求められている。

名塚中学校ではこれまで、「学び合う学び」を教育の柱と位置付け、学びの楽しさの感得と学力の向上を図るとともに、授業の中で対人関係スキルや自己有用感のさらなる高揚を同時追求してきた。令和4年度は、「学び合い」の中で互いの考えや過程やコツなどを言葉やICTを用いて伝え合う授業づくりに重点を置き、対象や他者、自分自身の「よさ」に気付くことができる活動を追究することで、授業だけでなく学校生活全般において生徒が達成感や充実感を味わうことができる学校を目指して教育活動を行ってきた。その結果、多くの生徒が、対話する活動やICT機器を用いた交流活動を取り入れた授業によさを感じ、学び合いが生徒に定着しつつあることが、学校評価アンケートなどの結果から分かった。一方で、学校努力点のねらいであった、学校生活の中で「自分の力が発揮できた、役に立った」と実感することについては、目指す姿に到達するまで余地のあることが分かった。その背景として、私たちは以下のような課題があるのではないかと考えた。

- ・自身の学びを振り返る際に、学びの過程で習得した知識・技能や、「学び合い」を通して身に付けた考え方などを明確にすることができていないため、自らの成長を実感し、達成感や自尊感情を十分に育むことができていない。
- ・対話的活動が増え、相対的に基礎基本を反復練習する機会が少なくなったことで、基本的な知識・技能の習得や定着が十分でないまま、「学び合い」に参加せざるを得ない生徒が増えている。そのため、「学び合い」を通して考えを深めることができなかつたり、逆に自己肯定感を低めてしまったりしてしまうこともある。

そこで、本年度も引き続き、学校努力点として「学び合い 認め合い 高め合う」を主題として掲げ、自分を振り返ったり、他者に認められたりすることを通して自尊感情を身に付け、たくましい姿で未来を切り開き、実生活で生きて働く生徒の資質・能力を育てていく。一方で、互いの考えや過程、コツなどを口頭やICTを用いて伝え合うという従来の「学び合い」に加え、基本的な知識・技能について生徒同士で教え合う機会を「学び合い」に取り入れることで、より多くの生徒が理解を深めながら知識・技能を習得し、活用していけるようにしたい。そこで、副題を「基礎基本の定着と『よさ』への気づきを促す対話的活動」として、ねらいや時期に即した対話的活動の充実に重点を置くことで、主題に迫りたい。

2 学校努力点達成のための重点項目

(1) 対話的活動を効果的に取り入れた学び合いの確立を目指して

- ① 教科のねらい(本時の目標)に基づいた授業デザイン(評価計画)の作成。
- ② 生徒が既習の知識や考え方を総動員して思考することができる課題づくり。
- ③ 学び合う授業における教師の居方・聴き方・語り方

(2) 教師が学び合う機会の設定 … 一人1実践の公開授業研究

年間2回(2週間程度)の授業参観期間

- ① 「学び合い」を通して、生徒が自分や他者の考え、考えの基となった知識・技能に対して、「よさ」を見出すことができているか。生徒の姿や学んだことを話題にする。
- ② 学び合う授業での教師の役割を学び、普段の授業に生かす。